「○○○題材名（タイトル）○○○」

（内容名）を実践して

○○市　技術・家庭科研究会

１　はじめに

　本校（本市）においては，「○○○○」という生徒の実態がある。そのため，「○○○○」という資質・能力の育成を目指し，主な見方・考え方を「○○○○」，「○○○○」，「○○○○」，「○○○○」として，資料等を提示することとした。

２　問題発見・課題設定について

　生徒が見方・考え方に気付くことができるように，○○○○を用いて問題解決の工夫について考える学習を行った。そして，生徒に生活や社会の中から技術に関わる問題を見いださせるために○○○○の資料を提示した。生徒は，「○○○○」という問題点を見いだした。その問題を解決するために，「○○○○」「○○○○」「○○○○」という課題を設定した。

３　実習内容について（本年度・昨年度）

　課題解決のために，○○計画を立てさせた。○○計画では，「○○○○」「○○○○」「○○○○」に留意した。生徒からは，「○○○○」「○○○○」「○○○○」等の意見があり，これらを踏まえ，○○計画を立案させた。その後，○○計画に沿って○○○○の（製作・栽培・制作）を行った。

４　実習後の評価・改善等（本年度・昨年度）

　実習後，これまでの学習を振り返り，○○計画の評価・改善の授業を行った。授業では，「○○○○」として，生徒自身の「○○○○」から成果と課題を考えた。成果と課題を他者と自分のものを比較し考察することで，○○○○について考えることができた。また，生徒の○○○○に学習に取り組む姿が見られた。

５　「社会の発展と技術」の学習内容について（本年度・昨年度）

　社会の発展と技術の授業については，「○○○○」というテーマで調べ学習と話合いを行った。○○学習では「○○○○」について○○○○で調べ，「①○○○，②○○○，③○○○，④○○○」などが原因であることに気付かせることができた。話合いでは，その中の「②○○○」について解決する方法について考えさせた。生徒から，「○○○○」「○○○○」「○○○○」「○○○○」等の意見があった。

６　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について（本年度・昨年度）

　○○の学びを実現するための支援策として「○○○○」を製作した。「○○○○」には○○○○させた。

　また，「○○○○」を用いた。「○○○○」では，○○○○として生徒に提示した。

留意点：記入例では「○○○○」の部分を赤字で具体的な授業内容に置き換えて記載しています。３，４，５，６章にある（本年度・昨年度）はどちらの年度で記載しているかを示して下さい。6章については授業の中でワークシートを制作している場合や取り組み方を工夫した場面がありましたら記載して下さい。なければ，5章までの章立てで構いません。

（記入例）

「災害時の食糧不足を解決しよう」

（Ｂ　生物育成の技術）を実践して

○○市　技術・家庭科研究会

１　はじめに

　本校においては，「生物を育てることに興味・関心はもっているが，事象の要因や原因を追及して，新たな問題に対して課題を設定し解決する力を十分身に付けていない。」という生徒の実態がある。そのため，「既習の知識を活用し，育成環境を調整することができる」という資質・能力の育成を目指し，主な見方・考え方を「社会からの欲求」，「作物等を育成・消費する際の安全性」，「品質・収量等の効率」，「環境への負荷」として，資料等を提示することとした。

２　問題発見・課題設定について

　生徒が見方・考え方に気付くことができるように，「家庭菜園や農業で用いられている技術や仕組みにはどのようなものがあるか」を調べ，開発者の意図を読み取る学習を行った。そして，生徒が生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだせるように，総合的な学習の時間に制作した「地域と連携・協力することを目的とした防災の資料」を提示した。生徒は，「災害はいつ起きるかわからない」「災害が起きたときに食料を確保できる必要がある」「災害時でも，栄養のバランスは考えたい」という問題点を見いだした。そこから「肥料を適量にする」「温度管理を徹底する」という課題を設定した。

３　実習内容について（本年度）

　課題解決のために，栽培計画を立てさせた。そのときに，「十分な栄養」「一年中安定して収穫」「収穫量」の３つのポイントに留意させた。生徒からは，「栄養素を豊富にするためには，肥料について考えたり，こまめに摘芽したりする事が必要」「温度管理を徹底する」等の意見があり，これらを踏まえ，栽培計画を立案させた。その後，栽培計画に沿ってミニトマトの栽培を行った。

４　実習後の評価・改善等（昨年度）

　実習後，これまでの学習を振り返り，栽培計画の評価・改善の授業を行った。授業では，「お互いの成果・課題を評価し合いながら，改善策を考える」として，生徒自身の観察記録から成果と課題を考えた。成果と課題を他者と自分のものを比較し，考察することで，気象的要素や作物の特性について考えることができた。また，育成環境により成果が大きく変わることを体験的に知ることで，次の栽培への意欲を高めることができ，主体的に学習に取り組む姿が見られた。

５　「社会の発展と技術」の学習内容について（昨年度）

　持続可能な社会の構築のための授業については，「世界で飢餓に苦しんでいる地域の問題を解決しよう」というテーマで調べ学習と話合いを行った。調べ学習では「飢餓で苦しんでいる地域の原因」についてインターネットで調べ，「紛争，運搬，貧困，異常気象による気候変化，農作物の凶作，食糧の貯蓄技術の不足，害虫の大量発生」などが原因であることに気付かせることができた。話合いでは，その中の「農作物の凶作」について解決する方法について考えさせた。生徒からは，「農地の整備をもっと行う」「栽培する作物の見直し」「肥料や農薬の寄付」等の提言があった。

６　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について（本年度）

　主体的な学びを実現するための支援策として「気づきカード」を制作した。「気づきカード」には「気候や作業内容」と「栽培している作物の変化」を記録させ，そこから生まれる疑問点や気付きを書き留めさせた。

　また，学習のまとめとしてOPPシートを用いた。OPPシートは，見方・考え方を整理させ，課題設定や実習内容，実習内容の評価等，一連の授業を振り返り，見通しをもって学習に取り組ませるために生徒に提示した。